学校番号	2003

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	詳説「世界史」改訂版　（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説「タペストリー」（帝国書院）、 世界史重要語句チェックリスト（啓隆社）、センター世界史（啓隆社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界の諸地域の歴史的事象に「なぜ」の視点を常にもつ。
・歴史的事象を考察するとき、時間軸だけでなく、空間軸の視点も用意する。
・世界の歴史を理解するとき、政治史、文化史といった面だけでなく、生活史からのアプローチを常に意識する。
・「歴史」を現在と過去の対話として捉える意識を常に持つ。
・重要事項については、別角度からの見方、付随するエピソードなどにも眼を向ける。

2　学習の到達目標

・世界の歴史を地理的条件や、日本の歴史と関係付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を獲得する。
・歴史的諸資料に、主体的、自覚的に触れることにより、歴史的思考力を養成する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	古代から現代に至る諸地域の歴史、一体化していく世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようと努める。	現代世界の諸課題を世界史的観点から考察し、国際社会の変容を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、分析したり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事項を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	・ワークシート ・レポート	・定期考査 ・ワークシート ・レポート	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	D		
1学期(4・5月)	世界史への扉	・気候変動と私たち人類の生活 ・漂流民のみた世界・砂糖からみた世界の歴史	○	○	○	○	a:「自然環境　世界史の舞台」をテーマとしてとりあげ，自然環境と人類とのかかわりに着目し，地理と歴史への関心を高め，世界の歴史を意欲的に学習しようとしている。 b:「自然環境　世界史の舞台」をテーマとしてとりあげ，自然環境と人類とのかかわりを多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している c:「自然環境　世界史の舞台」をテーマとしてとりあげ，自然環境と人類とのかかわりについての様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d「自然環境　世界史の舞台」をテーマとしてとりあげ，自然環境と人類とのかかわりを考察し，世界の歴史の学習における地理的視点の重要性と世界の歴史を学習することの意義を理解している。	・ワークシート ・レポート
一学期(4・5月)	序章　先史の世界	・人類の進化 ・文明の始まり	○	○	○	○	a：人類が誕生し，自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている b:人類が誕生し,自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している c:人類が誕生し,自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している d：人類が誕生し，自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している:	・ワークシート

一学期(4・5月)	第1章　オリエントと地中海世界	1、 古代オリエント世界 2、 ギリシア世界 3、 ローマ世界	○	○	○ ○ ○	○	a：オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明、その後のローマ帝国について関心を高め，意欲的に追究しようとしている b:オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明、その後のローマ帝国について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c:オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明、その後のローマ帝国について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている d:オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明、その後のローマ帝国について理解し，その知識を身に付けている。	･定期考査 ･ワークシート

一学期(4・5月)	第2章 アジア・アメリカの古代文明	1、インドの古典文明 2、東南アジアの諸文明 3、中国の古典文明 4、南北アメリカ文明	 ○ ○		○ ○	○ ○ ○	a:南アジア・東アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている b:南アジア・東アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：南アジア・東アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている d:南アジア・東アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことを理解し，その知識を身に付けている	・定期考査 ・ワークシート
一学期(4・5月)	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1、 草原の遊牧民とオアシスの定住民 2、 北方民族の活動と中国の分裂 3、 東アジア文化圏の形成	○ ○ ○		○ ○	 ○	a:東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ:東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している ｃ：東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ：東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことを理解し，その知識を身に付けている	・定期考査 ・ワークシート

一学期（6・7月）	第4章　イスラーム世界の形成と発展	1、イスラーム世界の形成 2、イスラーム世界の発展 3、インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4、イスラーム文明の発展	○	 ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	ａ：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｃ：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｄ：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について理解し，その知識を身に付けている。	・定期考査 ・ワークシート

一学期（6・7月）	第5章　ヨーロッパ世界の形成と発展	1、西ヨーロッパ世界の成立 2、東ヨーロッパ世界の成立 3、西ヨーロッパ中世世界の変容 4、西ヨーロッパの中世文化	○ ○ ○	○	 ○ ○	○ ○ ○	ａ：地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ：地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 ｃ：地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ：地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について理解し，その知識を身に付けている。	･定期考査 ･ワークシート

一学期（6・7月）	第6章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開	1、トルコ化とイスラーム化の進展 2、東アジア諸地域の自立化 3、モンゴルの大帝国	○ ○	 ○ 		○ ○ ○	ａ：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 ｃ：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について理解し，その知識を身に付けている。	･定期考査 ･ワークシート

二学期(9・10月)	第7章 アジア諸地域の繁栄	1、東アジア世界の動向 2、清代の中国と隣接諸地域 3、トルコ・イラン世界の展開 4、ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	 ○	○ ○ ○ 		○ ○ ○ ○	a:14世紀から18世紀までの東アジア，西アジア，南アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている b:14世紀から18世紀までの東アジア，西アジア，南アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c:14世紀から18世紀までの東アジア，西アジア，南アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d:14世紀から18世紀までの東アジア，西アジア，南アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・定期考査 ・ワークシート
二学期(9・10月)	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	1、ヨーロッパ世界の拡大 2、ルネサンス 3、宗教改革 4、ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	○ ○ 	 ○ ○	○ ○ 	 ○ ○	a:15世紀から16世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b:15世紀から16世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c:15世紀から16世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d:15世紀から16世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について理解し，その知識を身に付けている。	

二学期（9・10月）	第9章　近世ヨーロッパ世界の展開	1、重商主義と啓蒙専制主義 2、ヨーロッパ諸国の海外進出 3、17～18 世紀ヨーロッパの文化と社会	 ○ 	○ 	 ○	○ ○ ○	ａ：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。とくに、スペインの時代が終わり、オランダの時代を挟んで、イギリス・フランスの時代になっていくことを理解しようとしている。 ｂ：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 ｃ：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について理解し，その知識を身に付けている。	･定期考査 ･ワークシート

二学期(9・10月)	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1、　産業革命 2、　アメリカ独立革命 3、　フランス革命とナポレオン	○	 ○ ○		○ ○ ○	ａ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 ｃ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて理解し，その知識を身に付けている。	･定期考査 ･ワークシート

二学期（11・12月）	第11章　欧米における近代国民国家の発展	1、ウィーン体制の成立 2、ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3、南北アメリカの発展 4、19世紀欧米の文化	 ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	ａ：18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 ｃ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ:18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて理解し，その知識を身に付けている	･定期考査 ･ワークシート

二学期（11・12月）	第12章　アジア諸地域の動揺	1、　オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2、　南アジア・東南アジアの植民地化 3、　東アジアの激動		○ ○ ○		○ ○ ○	ａ：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 ｂ：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 ｃ：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 ｄ：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて理解し，その知識を身に付けている。	・定期考査 ・ワークシート

二学期（11・12）	第13章　帝国主義とアジアの民族運動	1.　帝国主義と列強の展開 2.　世界分割と列強対立 3.　アジア諸国の改革と民族運動	○	○ ○		○ ○ ○	ａ：ヨーロッパ諸国のアジア・アフリカへの進出が、一方的な強者弱者の図式になっていないか。アジアの一員としてのわが国の視点を失っていないか。欧米中心史観にとらわれていないか。 ｂ：欧米列強が植民地を形成していく中で、お互いに対立し、やがては世界大戦につながっていく経を理解し、その結果を適切に表現している。 ｄ：アジア諸国の改革運動、反植民地運動を正しく理解し、さらに日本の位置づけについて様々な考え方を知っている。	ワークシート
二学期（11・12月）	第14章　二つの世界大戦	1.　第一次世界大戦とロシア革命 2.　ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3.　アジア･アフリカ諸国の民族運動 4.　世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5.　第二次世界大戦	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○ ○	ａ：戦争は軍隊がするもの、殺し合いは軍人たちの世界、というこれまでの戦争観を一変させる世界大戦。どうしてこのようなことになったかに関心を寄せ、繰り返さないための様々なツールを考えようとする。 ｂ：登場した様々な残虐兵器について、図表や写真などから具体的に想像し、その非人間性を表現する。 ｃ：大戦間のドイツのインフレについて、具体的な数字を扱い、その計算式から算術的にハイパーインフレを理解する。 ｄ： 一次大戦で厳しく反省し、二度と世界大戦を起こすまいと様々に工夫したにもかかわらず、人類は再び世界大戦の惨禍に見舞われた。政治的経済的理解にとどまらず、社会的文化的な側面からも理解できる。	･ワークシート

二学期・三学期（12・1月）	第15章　冷戦と第三世界の独立	1.　戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2.　米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3.　第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 4.　石油危機と世界経済の再編	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	ａ：戦後世界がどのようにできてきたのかを政治的に捉えようとする。石油危機の正しい知識を得、消費者としての正しい態度を考える。 ｂ：核抑止論が現実政治の中でどのような位置づけであったのかを考え、自分の意見を述べることができる。 ｃ：世界地図上、東西冷戦を理解するのに好適な組織名を記入し、また色分けし、冷戦を視覚的に理解する。 ｄ：戦後処理がどのようにおこなわれたかを知り、平和ニッポンのあるべき姿を思いいたす。	・ワークシート ・レポート
二学期・三学期（12・1月）	第16章　現代の世界　アジア諸地域の動揺	1.　社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2.　途上国の民主化と独裁政権の動揺 3.　地域紛争の激化と深刻化する貧困 4.　現代文明の諸特徴	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	ａ：眼前に広がる現代国際社会への多様な関心を啓発し、自分の行く先との係わり合いを探求する態度を養う。新聞・テレビをはじめ、情報ツールを利用して、世界情勢を少しでも知ろうとする。 ｂ：めまぐるしく展開する世界情勢の中で、自分・家族・地域社会・国家の進む先を考えようとし、表現しようとする。 ｃ：建築・絵画・音楽など、２０世紀文明の先端的造形を空間的情緒的に理解し、その構造を知る。 ｄ：廃墟から立ち直ったわが国の経済発展と、そのときそのときの国際情勢が密接に関連していることを理解できる。	・ワークシート ・レポート

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。